

加賀前田家ゆかりの町民文化と歴史遺産をめぐる！

【行程】

小坂公民館(8:30)====金谷町(千本格子の家並)====高岡市立博物館・古城公園====<昼食・クラフト>====山町筋(土蔵づくりの街並)====高岡大仏====瑞龍寺・利長墓所====蓮華寺(北国33ヶ所観音霊場)====小坂公民館(17:30)

加賀藩2代藩主
利長・瑞龍院

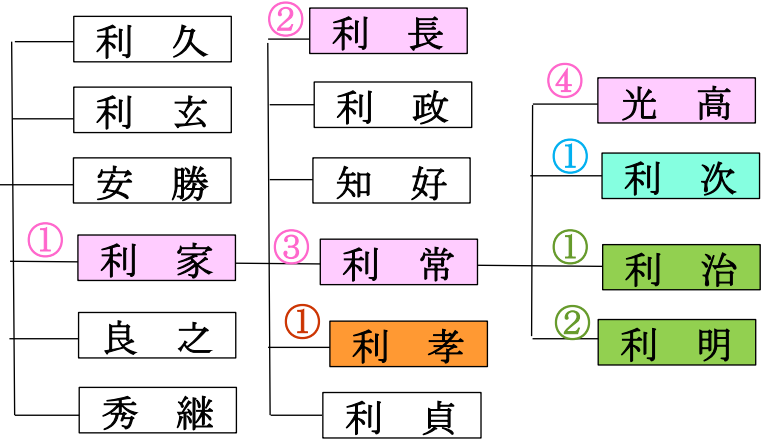


高岡古城公園



高岡城址の特徴

前田利春



加賀藩主

富山藩主

大聖寺藩主

七日市藩主

高岡城は、慶長14年(1609)前田利長が隠居城として何も無い原野に築城したが、完成を見ぬうちに一国一城令により廃城となりました。

設計は、当時前田家の客将であった高山右近が行いました。

現在まで、築城時の水堀が埋められず、城を構成する本丸などの7つの区画「廓(くるわ)」がそのまま保存されています。

- ① わずか五か月の突貫工事で入城
- ② 長さ⇒648m 幅⇒416.5m
- ③ 面積⇒約21.8万㎡
(東京ドームの約4.5倍)
- ④ 加賀藩領のほぼ中心にある関野は広大な沼沢地。その中に浮かぶ高岡台地(標高15m)の北隅に高岡城を築城
- ⑤ 城の縄張り(設計)は、本丸を中心に二の丸、鍛冶丸などの馬出を土橋でつなげた「連続馬出」が特徴で、防衛力が高い。
- ⑥ 廓と水堀は築城時のままで、歴史的価値が高い。



- 平成2年(1990) さくらの各所100選に認定
- 平成18年(2006) 日本100名城に認定
- 平成27年(2015) 国史跡に指定

年代	齢	主 な 出 来 事
永禄5年 (1562)	0	前田利家の長男として尾張国荒子村で誕生する。
天正9年 (1581)	20	越前府中の城主(3万3千石)となり、 <u>信長の四女、永姫(後の、玉泉院)</u> と結婚する。
同 11年 (1583)	22	賤ヶ岳の合戦後、 <u>松任城主(4万石)</u> となる。
同 13年 (1585)	24	1584年、 <u>末森城の合戦</u> で佐々成政を破り、その功績で利家より <u>越中三郡(砺波・射水・婦負)</u> を賜わり、守山城へ入る。 (いみず・ねい)
同 3年 (1598)	37	利家は、家督を利長に譲り2代藩主となり、 <u>金沢城</u> に入る。従三位権中納言に叙せられ、 <u>秀頼の補佐役</u> になる。
慶長4年 (1599)	38	利家死去。 <u>金沢へ帰る。(慶長の危機)</u>
同 5年 (1600)	39	5月、 <u>母芳春院(まつ)</u> 人質として江戸へ。 8月、 <u>大聖寺城攻略</u> 。越前金津まで進軍後、引き返し、浅井暁の戦い。9月、 <u>関ヶ原の戦い</u> 。 10月、家康より、 <u>加越能三国120万石</u> を与えられる。
同 6年 (1601)	40	二代将軍、徳川秀忠の娘、珠姫と利常(利家と側室寿福院との子)結婚する。
同 10年 (1605)	44	<u>藩主</u> を利常に譲り、 <u>富山城</u> で隠居する。
同 14年 (1609)	48	3月、 <u>富山大火</u> で魚津城へ移る。4月、高岡木町を設置。 5月、射水郡関野(後の、高岡)に築城。 9月、 <u>関野</u> を「高岡」と改め、 <u>未完成の高岡城</u> へ入城する。
同 19年 (1614)	53	<u>5月20日、高岡城にて死去。</u> 法名「瑞龍院殿聖山英賢大居士」正二位権大納言を贈られる。 利長が亡くなったことで、 <u>人質は3代藩主利常の生母・寿福院と交代し、芳春院(まつ)は、高岡で利長の墓参りをする。</u> その後、未亡人となった利長の妻・玉泉院を伴い金沢へ戻った。
元和元年 (1615)		豊臣家滅亡(大坂夏の陣)。一国一城の令により、 <u>高岡城</u> 廃城し家臣は金沢へ引き上げる。
正保3年 (1646)		利常、利長33回忌にあり高岡に墓地一万坪に及ぶ「 <u>前田利長墓所</u> 」(国史跡)を造営する。
寛文3年 (1663)		利長50回忌にあたり正保2年(1645)より建築中の <u>瑞龍寺(国宝)</u> が竣工する。



仏 殿



○総門(重要文化財)

瑞龍寺へ入る最初の門である。屋根は切妻造・柿葺きで、大冠木(おおかぶき)前面に配された大きな梅鉢紋や両端の八双飾、臺股(かえるまた)に彫られた獅子の彫刻には、桃山時代の特徴が表れている。

○山門(国宝)

正保2年(1645)に建てられたが、延享3年(1746)の大火で焼失した。17世天外和尚や町年寄の嘆願により、山上善右衛門吉順(よしのり)を棟梁として文化11年(1814)に再建着手、文政元年(1818)に完成した。

○仏殿(国宝)

禅宗伽藍の中心を占め、本尊を安置する中心的な堂である。総檜造で鉛屋根の白さが映える。内部は和様と天竺(てんじく)様を加えた細かな彫刻が施された、山上善右衛門嘉広の代表作である。

○法堂(国宝)

重要な儀式を行う堂で、屋根は入母屋造の銅板葺き、明暦元年(1655)に建立された。中央奥の内陣には利長公の位牌が安置されている。格天井には狩野安信の四季の百花草が描かれている。

○石廟(富山県指定文化財)

瑞龍院(利長)、高德院(利家)、総見院(信長)、正覚院(側室)、大雲院(長男信忠)

慶長18年(1613)利長に従った広山怒陽(こうざんじょよう)が開山した法円寺に始まり、翌年(1614)に亡くなった利長の法名「瑞龍院」にちなんで「瑞龍寺」と改称した。

1645年に義弟・利常が利長の菩提を弔うため、瑞龍寺改築に取り掛かり、造営は山上善右衛門嘉広(よしひろ)があたり、寛文3年(1663)の利長50回忌の年に完成した。当初の寺域は、3万6千坪で2重の濠で囲まれていた。



前田利長墓所(国指定史跡)

- ① 「前田利長墓所」は、3代利常が利長の33回忌にあたる正保3年(1646)に造営したものである。
- ② 一辺約180mの正方形区画で、大名の個人墓として全国でも最大級の規模を持っている。
- ③ 墓域は、外堀、内堀の二重の堀で囲まれ、その中心に一辺15.5mの御廟が位置する。
- ④ 御廟(ごびょう)は、戸室石で覆った二重基壇上にかさ塔婆(かさとうば)型墓碑が立つ。
- ⑤ 基壇の立面には狩野探幽の下絵と伝承される130枚の蓮華図が陽刻される。



瑞龍寺には東司(とうす)の守護神(トイレの神様)烏瑟沙摩明王立像(うすさまみょうおうりゅうぞう)が祀られています。本来は東司に祀られていましたが、二百五十年前に東司を火事で消失したために、今は法堂に祀られています。県指定重要文化財

千本格子の家並み 金屋町

国選定重要伝統的建造物群保存地区



高慶長16年(1611)、高岡に隠居していた利長は、領内の砺波郡西部金屋から7人の鋳物師をこの地に呼び寄せ、幅50間、長さ100間の土地を与えて鋳物場を開設させました。

また、諸税や労役を免除するなど多くの特権を与えて手厚く保護したことから、この地に鋳物産業が根付き、今日の高岡鋳物発祥の地となっています。

高岡鋳物発祥の地・金屋町の近くを流れる千保川に架かるこの「鳳鳴橋」は、高岡の地名の由来となった中国の詩経の一節「鳳凰鳴けり、彼(か)の高き岡に。梧桐(あおぎり)生ず、彼の朝陽に」より命名し、鳳鳴橋の中央に置かれた鳳凰像は、この橋の象徴となっています。



土蔵づくりの街並み 山町筋

国選定重要伝統的建造物群保存地区



山町筋(山町)は土蔵造りの建造物が多く残る町です。高岡の町では明治33年(1900)の大火災で高岡の町の約6割で山町筋(山町)の家屋ほとんどが被災しました。その中でも元々土蔵造りであった2軒の家屋が焼け残ったため、その後旧北陸街道沿いとその周辺の建物は土蔵造りで再建されました。

山町とは、高岡城下の旧北陸道沿いに発展した商人町で、高岡御車山祭の「御車山(みくるまやま)」を保有する10か町を指します。

天正16年(1588)、豊臣秀吉が、後陽成天皇(第107代)を聚楽第(じゅらくだい)に迎え奉る際に使用した御所車を、前田利家が拝領し、利長が1609年に高岡城を築くにあたり、町民に与えたのが始まりと伝えられています。



元和6年(1620)、利常は高岡町人に転出禁止令を出し、以降高岡を麻布、米、塩、魚など諸物資の集散地とする。

等覚山 蓮華寺(真言宗)

北国三十三観音霊場 第二十五番札所

縁起

寛喜2年(1230)、観行律師(かんぎょうりっし)の創建で、観行は鎌倉大楽寺(廃寺)の憲静(けんじょう)の高弟とみられています。北条政子は憲静に帰依し、夫源頼朝(鎌倉幕府初代将軍)の守本尊である十一面観世音像を始め、多くの宝物を蓮華寺に伝え、七堂伽藍を建立して頼朝の菩提を弔いました。

カヤの寄木造りで彫眼。右手に錫杖(しゃくじょう)、左手に蓮華宝瓶(れんげほうびん)を持ち、宝冠及び光背は透かし彫りである。

鎌倉時代中期の作で33年に一度開扉される秘仏である。(富山県指定文化財)



十一面観世音像



境内にある宝篋印塔(ほうきょういんとう)も頼朝公の菩提を弔うために建立されたと伝わる供養塔で頼朝の分骨が埋葬されたと伝えられています。(高さ2.7メートルで北陸最大)

東隣の大門町は、この寺の大門があったと伝えられています。

また、蓮花寺附近は、奈良東大寺の墾田地「鹿田庄」と確認され、仏教渡来の初期に聖武天皇(第45代)の勅願により諸国に建立された越中国の国分尼寺が、旧蓮花寺の跡ではないかと云われています。

日本三大仏 高岡大仏

承久3年(1221)、摂津国多田(兵庫県)に住む源義勝が承久の乱を避け、入道して越中二上山麓に移り、八寸(約24cm)の金銅仏を腹の中に納めた一尺六寸(約4.8m)の木造大仏を麓に建立したのが始まりと伝えられています。

慶長14年(1609)利長が高岡城築城の折、現在地に移され、延享2年(1745)極楽寺の第15代住職である等誉(とうよ)上人らの手で、高さ約9.7mの金色の木造大仏が再建されました。

その後、数回の大火に見舞われ消失しましたが、火に強い大仏の再建が叫ばれ、高岡銅器の職人らによる手で昭和7年(1933)完成しました。

坐高⇒7.4m 蓮台の高さ⇒約6m
総高⇒15.8m 重量⇒65 t



銅造阿弥陀如来坐像

【日本三大仏】

奈良大仏⇒天平勝宝4年(752) 高岡大仏⇒承久3年(1221) 鎌倉大仏⇒寛元4年(1246)